

地平線

2017年2月号
発行所
全日本港湾労働組合
関西地方建設支部
大阪市港区築港1-12-27

17春闘 さあ、みんなで

取り組もう！

支部書記長 野崎 健

2月も半ばになりました。冬の寒さも続いていますが、底は抜けて春の訪れを予感できる時期になってきました。

この時期になると新年度の賃金・労働条件・労働環境をどうするか？会社（経営側）が一方的に決めるのではなく働いている労働者の声を反映させる取り組み。日ごろ弱い立場にある労働者が一斉に声を上げ「少しでも生活が良くなるように」

と団結する運動が春闘です。

北は北海道、南は沖縄。全国どこにいても、いろいろな産業や職種にかかわらず、大きい会社も零細でも、右でも左でも、働く労働者がいつせいに参加して行動する運動で半世紀をこえて続いています。

今年の春闘、建設支部では来週の20日に要求提出日というところで「よい、ドン」のスタート。

年明けから仲間が集って「意見交換会」・「新年交流会」や地

本の仲間との「春闘討論集会」を積み重ねて、もろもろの職場の課題を出し合いながら今年の要求を話し合ってきました。

何よりも生活に大事で必要な賃金アップの要求。全港湾の全国要求の月2万円。なかなか大変ですが建設支部としても要求していくことを決めました。

働いて賃金をもらって生活する以上、日々の生活を維持するのとほもちろん、一年ほんのすこしづつでも生活が改善されることを願うことは、人間として当たり前のことです。

集中して「格差社会」が固定化してしまつて、下請け零細企業やそこで働く労働者、全国に拡大する「非正規労働者」にとつてはむしろ労働条件・労働環境は悪化の一途をたどっています。

しかしながら、こうしたささやかな願いが、なかなか今の日本社会では実現できないどころか、逆に年々苦しくなるような社会になっていきます。

付け加えて、年金・医療・各種社会保障の抑制・削減の一方税金と社会保険の増額といった「働く者いじめ」みたいな政策が続けられています。

一部の大手巨大企業だけに利益と富が

日本経済の長期低

迷が続いています。原因は「労働者が貧しすぎて」「国民の消費の減衰（不足）であることはだれの目にもあきらかです。こうした日本社会を変えするためにも「労働者を豊かにして」「日本を豊かにする」

政治に転換する必要があります。働く者一人ひとりが春闘に参加して声を上げることが大事です。

17春闘。さあ、みんなを取り組んでいきましょう！

春闘スケジュール

◆ 2月20日(月)

◆ 全港湾建設支部春闘要求提出団交
◆ 大阪港湾労働会館3階 14:00から

◆ 3月2日(木)

◆ 太平ビルサービス分会団体交渉
◆ 大東市民会館 18:30から

◆ 3月6日(月)

◆ 太平ビル分会執行委員会
◆ 大阪港湾労働会館3階 15:00から
◆ 建設支部執行委員会
◆ 大阪港湾労働会館3階 18:00から

◆ 3月24日(金)

◆ 春闘第1回回答指定日

◆ 4月9日(日)

◆ 太平ビル分会お花見バスツアー
◆ 行き先: 丹波篠山
◆ 集合: 8時15分 なんば南都銀行前